

塩野義製薬株式会社御中

「Mother to Mother プロジェクト」第4年次 月次報告②

対象期間：2018年12月1日～2019年1月31日

1. 支援事業概要

| | |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業名： | Mother to Mother Shionogi Project |
| 事業地： | ケニア共和国 ナロク県 オスプロコ郡 エランガタ・エンテリット地区 |
| 事業期間： | 2018年4月～2019年9月（事業4年目） |
| 対象人口： | 741世帯（住民3,545人） |
| 年間予算： | 2,000万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18.5%を含む） |
| 活動目的： | 水衛生環境の改善を中心としたマルチセクターの取り組みを行い、住民への啓発と意識・行動変容を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。また、下痢と栄養状態を指標として、その効果の調査・研究を行います。 |

2. 進捗報告

第4年次に予定している12の活動のうち、対象期間に実施した活動についてご報告いたします。

活動① 水供給施設の整備

ワールド・ビジョン・ジャパンの自己資金にて井戸の掘削を行い、予想以上の水量が得られました。今後診療所そして近隣の小学校と高校に御社によるご支援も一部含めてパイプラインをつなぎ、安定してきれいな水が得られるようにします。

活動② 衛生施設の建設方法の普及

保健省の担当官と協力して、エランガタ・エンテリット地区4カ所でCLTS（Community-led Total Sanitation）のトリガリング活動を実施しました。この結果、参加した住民の野外排泄に対する意識が変容し、各自の家にトイレを設置する意思を生み出すことができました。本事業では今後、トイレ建設にかかるフォローアップを行っていきます。

活動③ 村落保健員への水衛生研修

村落保健員32人（男性28人、女性4人）に対し、水浄化方法に関する再研修を実施しました。コミュニティで実施できる様々な浄化・滅菌方法を紹介し、デモンストレーションを通じて村落保健員が家庭訪問の際に適切な情報が伝達できるように、知識・技術のトレーニングを実施しました。

また、村落保健員42人（男性36人、女性6人）に対して、排せつ物処理の方法や石鹸での手洗

いの重要性についての研修を実施しました。

活動④ 学校の保健クラブの設立と研修

対象地域内にある学校 3 校（エランガタ・エンテリット小学校、エランガタ・エンテリット高校、イシノン小学校）に手洗い設備を購入・設置しました。今後学校での保健クラブの活動を開始します。

活動⑤ コミュニティでの衛生指導

水浄化の凝集剤（P&G 社製）を購入しました。今後、村落保健員および M2M グループによって各世帯に配布するとともに、水の浄化方法や正しい手洗い方法等を、デモンストレーションを行いながら一軒一軒に伝えていきます。

また、石鹼での手洗いの意識・習慣をつけるため、学校の壁に啓発メッセージを描きました。



エランガタ・エンテリット高校のトイレの壁に描かれたメッセージ：

「トイレを使った後は、石鹼と水で手を洗いましょう」

活動⑥ 母子保健研修

1) 本事業で母子保健の研修を受けた村落保健員は、家庭訪問を通じて約 420 人の女性に健康教育を行いました。特に産前健診、予防接種、母乳育児の 3 点を重点的に啓発しました。

2) 伝統的産婆 15 名に対して、施設分娩や診療所での医療サービス受診の重要性について、研修を実施しました。研修では、村での妊産婦に対してどのようなアドバイスをするべきか、なぜ産前健診が重要なのか、妊産婦と胎児にはどのような危険性があり、特に出産時にはどのようなリスクが伴うのか、子どもに予防接種が必要な理由は何か、など、母子保健に関する基本知識を伝えました。研修を受けた伝統的産婆は、正しい知識を学んだことを感謝しており、村の妊産婦の助けになれることを喜んでいます。

12 月上旬の研修後、診療所で 4 件の出産がありましたが、いずれも伝統的産婆の付き添いがありました。また、他に 2 件、伝統的産婆の付き添いにより診療所に向かう途中で出産をした

ケースもありました。昔からの伝統的産婆の存在を尊重しながら、正しい知識を伝え、コミュニティ全体で妊産婦と子どもたちを守っていけるように、活動を進めています。

活動⑦ 子どもの成長・発達に関する研修

村落保健員 35 人（男性 31 人、女性 4 人）に対して、子どもの成長・発達を助けるために重要な基本的な考え方や行動の研修を行いました。例えば、子どもとのコミュニケーションの方法、安全な遊ぶ環境整備、特別支援の必要な子どもに関して、など幅広い知識を学び、保護者の役割、教師の役割、村落保健員の役割をそれぞれグループで考えるワークショップを行いました。



グループに分かれてワークショップを実施している様子。子どもとどのように接すべきか、どのような環境を整えるべきか、家庭訪問の際に保護者に伝えるポイントについて意見を出し合い、理解を深めました。

活動⑨ 巡回診療

保健省、村落保健員、アドボカシー・グループで連携して毎月実施をしています。特に診療所から遠い地域で妊産婦や 5 歳未満児の検診や医療サービスの提供を行っています。

報告期間には、5 歳未満児 82 人（男子 43 人、女子 39 人）が予防接種を受け、そのうち 24 人（男子 15 人、女子 9 人）が完遂することができました。親や保護者に予防接種の意義と未実施の予防接種の情報を伝え、一人でも多くの子どもの予防接種を完遂してより健康に過ごすことができるように、啓発活動を続けています。

また、産前健診、完全母乳、適切な栄養、施設分娩など、出産時のリスク軽減のために取るべき行動を繰り返し啓発しています。エランガタ・エンテリット診療所でこの期間に 4 人の赤ちゃんが生まれました。対象期間中に 20 人の妊産婦および 86 人の授乳婦が診察を受け、産前健診や HIV 検査、尿検査、血液検査、VDRL（梅毒）検査、葉酸や破傷風トキソイドの投与などの母子保健サービスを受けました。5 人の妊産婦が HIV 検査を受け、3 人が 4 回の産前健診受診を完了しました。

活動⑩ コミュニティでの栄養教育

保健省と協働の上、巡回診療や診療所にて子どもの栄養状態を確認し、栄養不良児に栄養補助食の支給を継続的に行っています。対象期間に 5 歳未満児 283 人（男子 118 人、女子 165 人）の

栄養調査（身長・体重・MUAC など）を実施、57 人が栄養不良と診断され（うち 10 人が急性栄養不良）、栄養補助食の支援等を受けることができました。栄養不良児の回復の状況は継続的にモニタリングをしていきます。



身長・体重・MUAC を測定

【連絡先】

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当: 平田 (マーケティング第1部 法人・特別ドナー課)